

随 想

「さよなら」は言えません

北 嶋 桂 子

与えられた生命の不思議さを  
自分に問い  
人にも問い  
問いつづけていたのですが  
何もわからないままに  
こんなところまできてしまいました

お会いしましょうと約束した日が  
お葬式になるなんて  
どうして考えられましょう  
それは  
炎を集めたような暑い日でした

わたしは  
いくら言っても言い足りないほどの「ありがとう」を  
心にも  
両腕にも  
こぼれるほどに持っていました  
持ったままで膝を折って  
しばらくはうずくまっていたのですが  
行き場のない言葉を  
一枚ずつ  
日めくりのように破って  
空にとばしていました  
はるかに遠くに向かって飛ぶ筈の日めくりは  
寺院の屋根の上に一列に並んで

雨曝しの小旗のように翻っていました

「さよなら」は言えません

—高橋歌子様におくるうた— (地平の会会員)